



北海道大学

文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業」選定事業 人文社会分野(国語科)

個別学力試験「国語」が測定する 資質・能力の分析・評価手法に関する研究

～記述式問題を中心に～

2019年3月18日

選定機関:北海道大学

連携機関:東北大学・九州大学・長崎大学・大学入試センター

研究目的

学力の3要素を網羅できる問題作成の支援

【網羅性の課題】

- ・学力の3要素
- ・特に「思考力、判断力等」「学びに向かう力(主体性)」

【問題作成の課題】

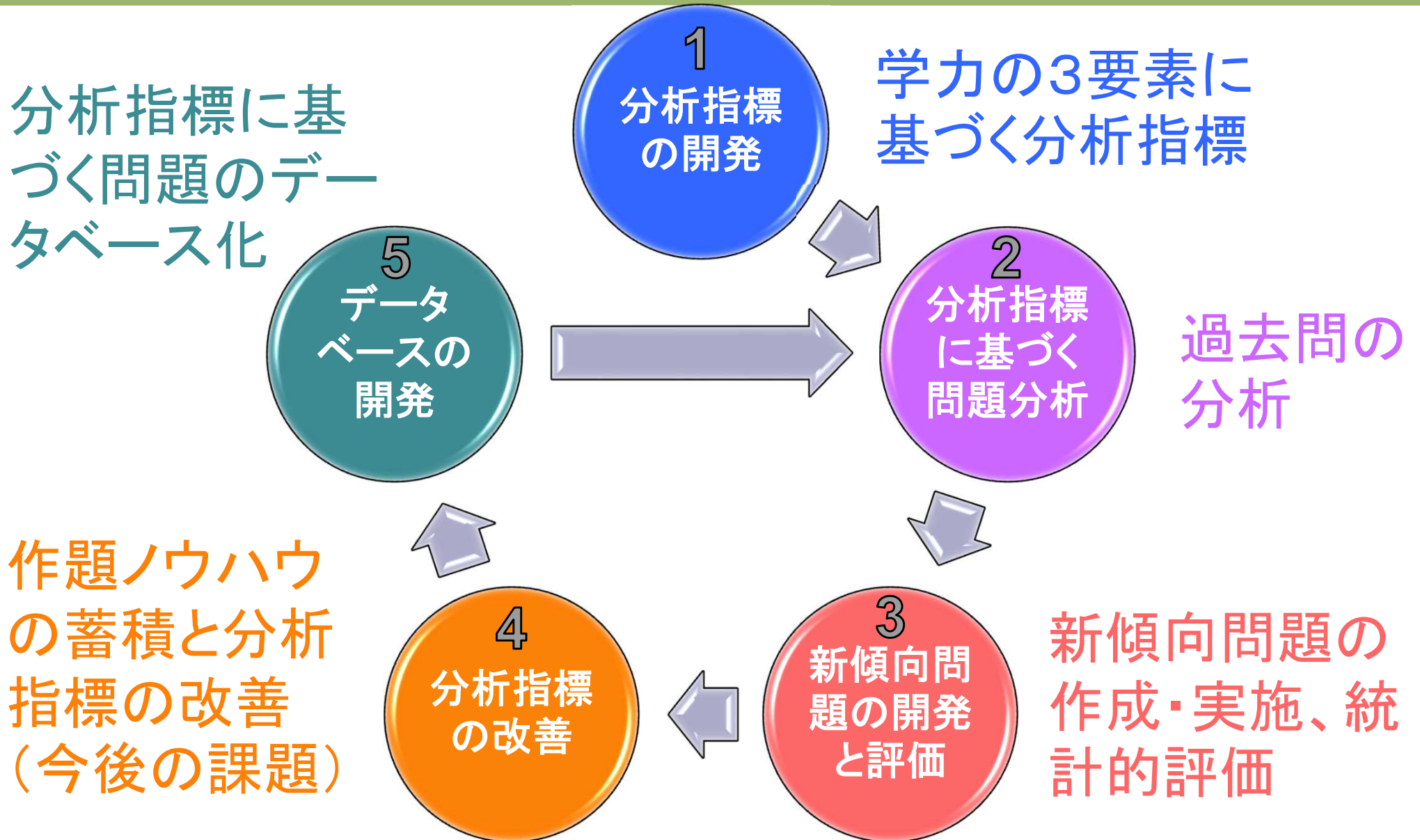
- ・「思考力、判断力等」「主体性」を国語の問題で表現
- ・具体的作題過程

【現状把握の課題】

- ・既存の問題(過去問)が測定している要素？
- ・受験者の認識？



研究内容



研究スケジュール

問題の評価指標に関する教科教育学・教育評価に基づく定性的分析(北海道大学等)

平成28年度(研究A)

「資質・能力と出題形式との関係」に基づき評価の観点を整理する



平成29年度(研究A)

評価の観点ごとに平成27年度の試験問題を分析指標(マトリクス)に分類し、観点を修正する



平成30年度

測定不十分な観点を検証し、それを測定できる問題案を作成するとともに、観点別の問題データベースを構築する

情報提供(大学入試センター)
現行センター試験および大学入学共通テスト(試行調査)で測定している資質・能力に関する専門的知識の提供

研究の連携

WG
高校グループ
(札幌市内, 静岡県, 千葉県
高等学校国語科教諭)

出題形式と資質・能力の関係に関するテスト理論・測定学に基づく定量的分析(東北大学等)

平成28年度(研究B)

平成27年度の試験問題を出題形式(記述式、選択式など)で分析する



平成29年度(研究B)

資質・能力を安定して測定できているかどうかを検証し、独自調査を実施する



平成30年度

資質・能力を測定する問題としての妥当性を検証する



1. 分析指標の開発

目標

学力の3要素から見た問題の分析指標の開発



横軸：問題で測定する資質・能力【目標】

学習指導要領等に基づく具体的資質・能力

縦軸…設問形態【手段】



具体的設問
形式・問い方

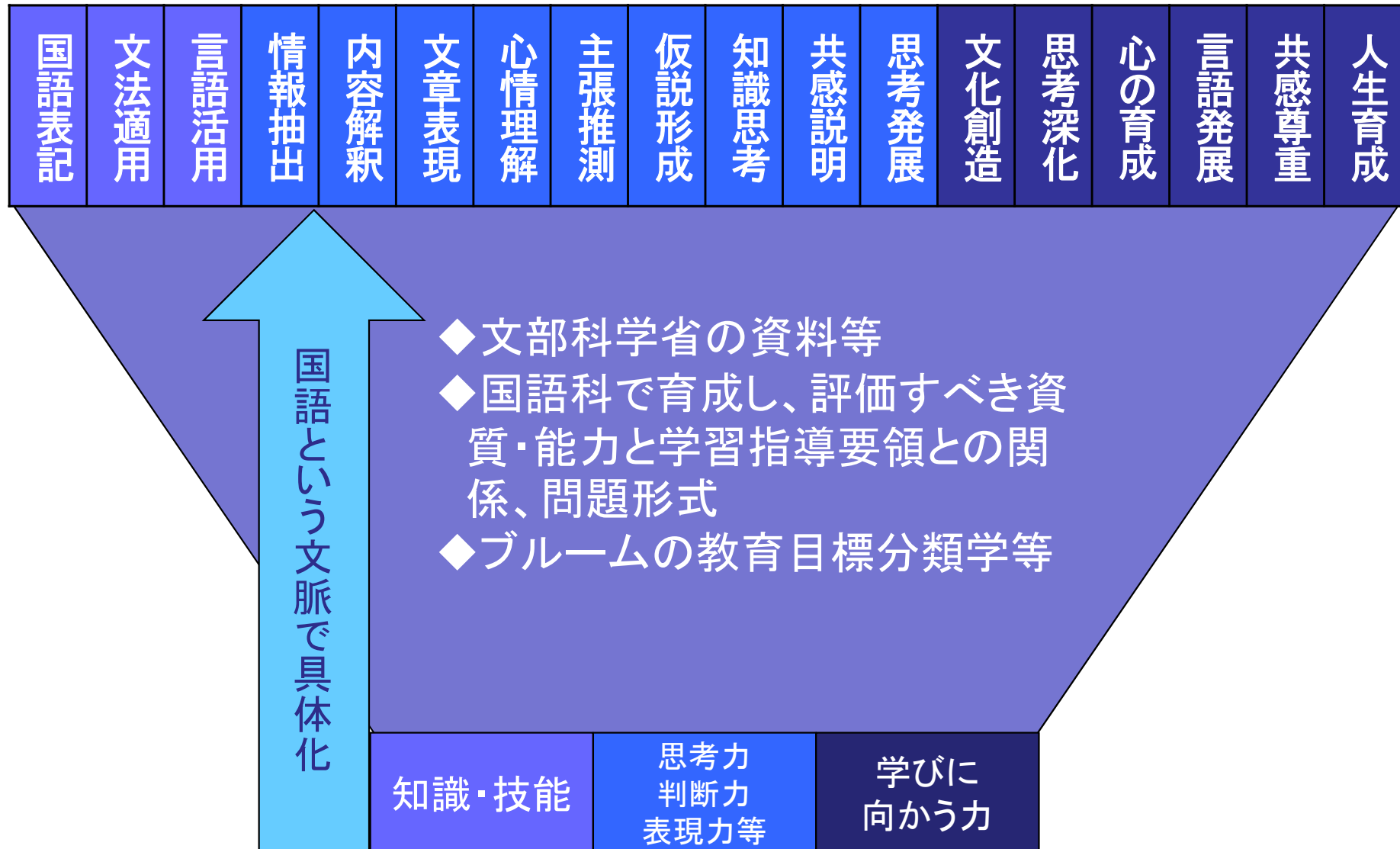
国語記述問題分析マトリクス

1. 従来の問題を小問単位で分析
2. 小問単位でマトリクスにマッピング
3. 既存の問題でカバー不足の資質・能力
4. 新傾向問題に応じた設問形態の適当



1. 分析指標の開発：目標となる資質・能力（横軸）

目標(横軸)：資質・能力

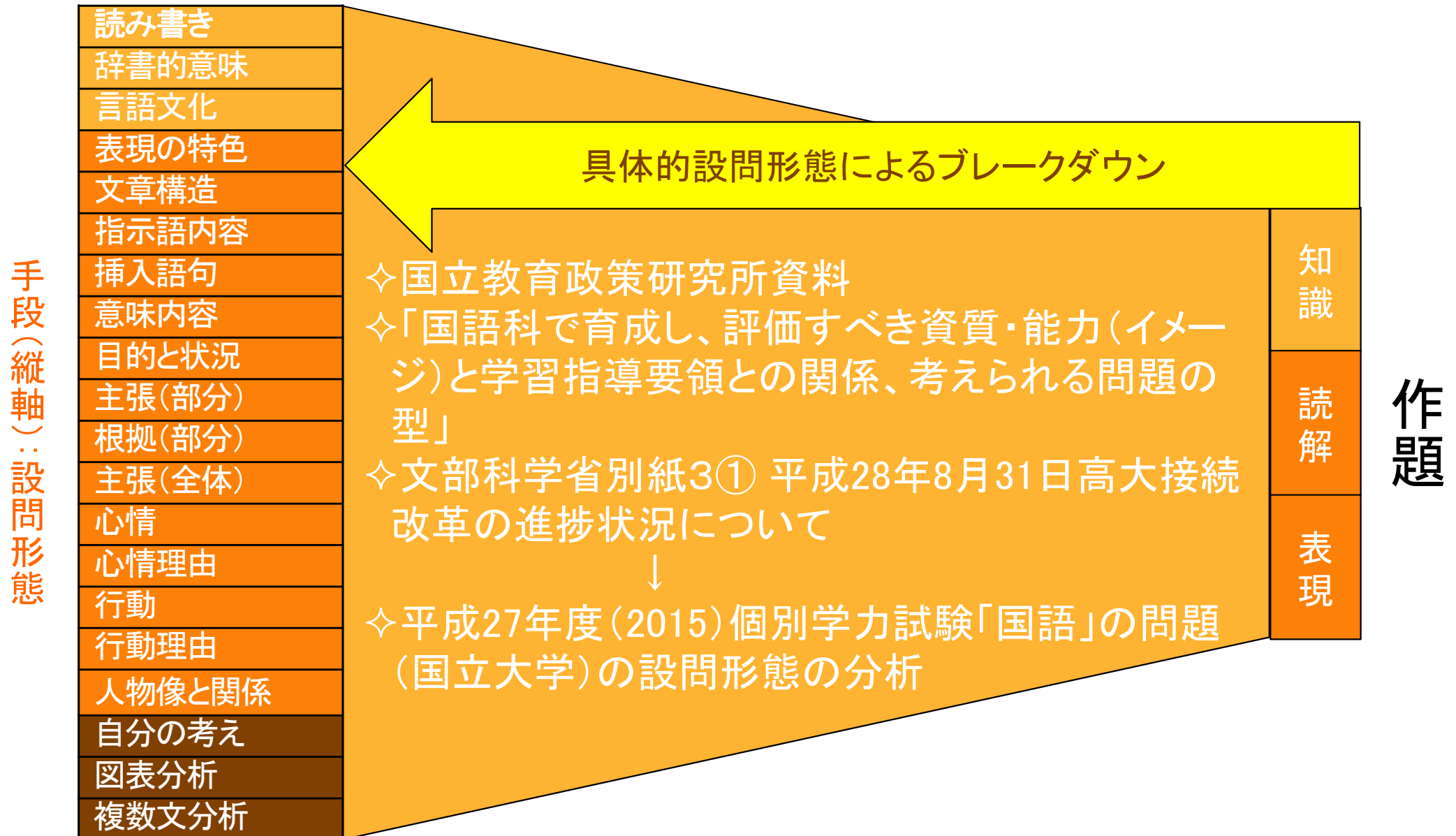


学力の3要素



北海道大学

1. 分析指標の開発：手段となる設問形態（縦軸）



1. 分析指標の開発

横軸:問題で測定する資質・能力【目標】

		国語表記	文法適用	言語活用	情報抽出	内容解釈	文章表現	心情理解	主張推測	仮説形成	知識思考	共感説明	思考発展	文化創造	思考深化	心の育成	言語発展	共感尊重	人生成成	
縦軸 問題の設問形態【手段】	知識	読み書き	知識・技能			思考力・判断力・表現力等							学びに向かう力							
	読解	辞書的意味																		
		言語文化																		
		表現の特色																		
		文章構造																		
		指示語内容																		
		挿入語句																		
		意味内容																		
		目的と状況																		
		主張(部分)																		
		根拠(部分)																		
		主張(全体)																		
		心情																		
		心情理由																		
		行動																		
		行動理由																		
		人物像と関係																		
		自分の考え																		
	表現	図表分析																		
		複数文分析																		

**個々の設問を2軸で
分解してマトリクス内に
設問をマッピングする**

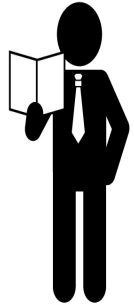


2. 分析指標に基づく問題分析

目標

過去問がカバーする資質・能力および設問形態の分析

分析者



- 入試等での作題・採点経験のある高校教員等11名
- 大問1問につき5～6名が分析
- 該当する資質・能力はすべてチェック
- 該当する設問形態もすべてチェック

分析対象



- 平成27年度の二次試験における現代文の問題
- 旧帝大、旧医科大、旧商大、旧文理科大など20大学分
- 大問45問、小問229問

分析結果

	言語運用	文法	言語活用	情報抽出	内容理解	文章理解	心情理解	主張理解	仮説形成	知識習得	共感理解	思考発展	文化創造	心の育ち	言語表現	共感尊重	人生育成
2017年度																	
2016年度																	
2015年度																	
2014年度																	
2013年度																	
2012年度																	
2011年度																	
2010年度																	
2009年度																	
2008年度																	
2007年度																	
2006年度																	
2005年度																	
2004年度																	
2003年度																	
2002年度																	
2001年度																	
2000年度																	
1999年度																	
1998年度																	
1997年度																	
1996年度																	
1995年度																	
1994年度																	
1993年度																	
1992年度																	
1991年度																	
1990年度																	
1989年度																	
1988年度																	
1987年度																	
1986年度																	
1985年度																	
1984年度																	
1983年度																	
1982年度																	
1981年度																	
1980年度																	
1979年度																	
1978年度																	
1977年度																	
1976年度																	
1975年度																	
1974年度																	
1973年度																	
1972年度																	
1971年度																	
1970年度																	
1969年度																	
1968年度																	
1967年度																	
1966年度																	
1965年度																	
1964年度																	
1963年度																	
1962年度																	
1961年度																	
1960年度																	
1959年度																	
1958年度																	
1957年度																	
1956年度																	
1955年度																	
1954年度																	
1953年度																	
1952年度																	
1951年度																	
1950年度																	
1949年度																	
1948年度																	
1947年度																	
1946年度																	
1945年度																	
1944年度																	
1943年度																	
1942年度																	
1941年度																	
1940年度																	
1939年度																	
1938年度																	
1937年度																	
1936年度																	
1935年度																	
1934年度																	
1933年度																	
1932年度																	
1931年度																	
1930年度																	
1929年度																	
1928年度																	
1927年度																	
1926年度																	
1925年度																	
1924年度																	
1923年度																	
1922年度																	
1921年度																	
1920年度																	
1919年度																	
1918年度																	
1917年度																	
1916年度																	
1915年度																	
1914年度																	
1913年度																	
1912年度																	
1911年度																	
1910年度																	
1909年度																	
1908年度																	
1907年度																	
1906年度																	
1905年度																	
1904年度																	
1903年度																	
1902年度																	
1901年度																	
1900年度																	

- ❖ ある小問について5人の分析者のうち3名がある同じマスにチェックしていた場合、その小問におけるそのマスの値は $3 \div 5$ で0.6とする
- ❖ 各マスのこの値の合計を該当する問題数で割った百分率をそのマスの値とする



2. 分析指標に基づく問題分析 分類・分析方法

※平成27年度(2015)北海道大学出題 外岡秀俊「3度目の情報革命と本」の一節(設問の都合で一部省略したところがある)[参考文献:旺文社(2016)「全国大学入試問題正解」]より

筆者の主張

大問2:問5

傍線部Eに「共に「本」への愛情に裏打ちされているとはいえ、「紙派」と「電子派」は本来、鋭く対立している」とあるが、「紙派」の「電子派」に対する批判はどのような点にあると考えられるか。本文の内容に即して80字以内で説明せよ。

対比している事柄

①(素材文読解後)設問内容の分析

1つの小問のなかで「筆者の主張」に基づき、「対比している事柄(紙派と電子派に対する批判)」を80字以内で要約させている

2つの「設問内容」が問われている



2. 分析指標に基づく問題分析 分類・分析方法

②解答作成と「資質・能力」の分析

解答(例)

紙の消滅により知識が情報化・断片化するとともに、分科装置を介さない個人の電子出版が大量に出回ることで、高質の出版が支えてきた伝統的な知の文化が崩壊してしまう点。(80字)

【知識・技能】

- ・漢字、仮名遣い、句読点の使い方が合っている
- ・主語・述語の関係を理解し、文章を作成している

【思考力・判断力・表現力等】

- ・「筆者の主張」と「紙派と電子派の対立」の抽出
- ・「筆者の主張における紙派と電子派の対立」の解釈
- ・「筆者の主張における紙派と電子派の対立」について80字以内で表現
- ・「筆者の主張」を本文から推測

6つの「資質・能力」が測定されている



2. 分析指標に基づく問題分析

横軸：国語科において育成すべき資質・能力18項目

知識・技能(何を理解しているか・何ができるか)	
a.正しい国語表記ができる(漢字, 仮名遣い, 句読点) b.言葉の決まり(文法, 修辞法)を正しく適用できる c.日本の伝統的な言語文化を活用できる(ことわざ, 慣用句)	「情報を編集・操作する力」、「新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力」、「新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力」を働かせ、考えを形成し深めることが特に重要である(中教審第197号126～127頁より一部引用)
思考力・判断力・表現力等 (理解しているか・何をすることができるか)	
d.目的や課題に応じて文章や情報を正確に抽出できる e.文章の構成や論理の展開に沿って, 正確に内容を理解できる f.課題を解決するために必要な情報を抽出し, 整理し, 活用することができる g.人々の考えや感情を理解し, 共感することができる h.筆や話し言葉で自分の考えや感情を表現することができる	i.根拠を明らかにし, 論理的に説明することができる j.自己の考えや感情を整理し, 表現することができる k.目的に応じて適切な表現を選択し, 活用することができる l.新しい情報と知識・感情・経験を統合し, 自分自身の考えや感情を構造化・発展させることができる
社会・世界と関わり, よりよい人生を送るか	
m.様々な人々の考えや感情を理解し, 共感することができる n.言葉を通じて他者の心と共感し, 互いの存在について理解・尊重しようとする o.様々な人々の考えや感情を理解し, 共感し, 活用・継承・発展させようとする	p.言葉を通じて他者の心と共感し, 互いの存在について理解・尊重しようとする q.日本の言語文化を享受し, 活用・継承・発展させようとする r.読書を通して自分の人生を豊かにしようとする

「学びに向かう力・人間性等」で挙げられている態度等が基盤となつて、自ら次の学習活動に向かおうとする意識が生まれ、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」の育成が図られる(中教審第197号127頁より一部引用)

2. 分析指標に基づく問題分析

縦軸：設問内容20項目

知識（言語事項：評論・小説共通設問）

- 1.漢字や熟語の読み書きを問う（同音異義語等含む）
- 2.語句の辞書的意味を問う
- 3.言語文化に関する知識を問う

読解（評論・小説共通設問）

- 4.表現の特色を問う
- 5.文章の構造や対比している事項を問う
- 6.文脈に照らし指示語の内容を問う
- 7.文脈に照らし挿入すべき語句や文を問う
- 8.文脈に照らし文や語句の意味内容を問う
- 9.文脈に照らし文の示す目的・状況を問う

読解（評論での設問）

- 10.文脈に照らし筆者の主張（考え）を問う
（要約を含む）
- 11.文脈に照らし筆者の主張（考え）の根拠や理由を問う
- 12.本文全体を読み、筆者の主張（考え）を問う
（要約を含む）

読解（小説での設問）

- 13.文脈に照らし登場人物の心情（心情変化）を問う
- 14.文脈に照らし登場人物の心情の理由を問う
- 15.文脈に照らし登場人物の行動を問う
- 16.文脈に照らし登場人物の行動の理由を問う
- 17.文脈に照らし登場人物の人物像や関係性を問う

表現（評論・小説共通設問）

- 18.本文を踏まえて、自分の考えを問う
- 19.図表の情報を読み取り、分析・考察させる
- 20.複数の文章の情報を読み取り、分析・考察させる

文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること（以後省略）が課題となっている（中教審第197号124頁より一部引用）



2. 分析指標に基づく過去問題の分析

	国語表記	文法適用	言語活用	情報抽出	内容解釈	文章表現	心情理解	主張推測	仮説形成	知識思考	共感説明	思考発展	文化創造	思考深化	心の育成	言語発展	共感尊重	人生育成
読み書き	■																	
辞書的意味																		
言語文化																		
表現の特色																		
文章構造	■	■		■	■	■												
指示語内容																		
挿入語句																		
意味内容	■	■		■	■	■												
目的と状況	■	■		■	■	■												
主張(部分)	■	■		■	■	■												
根拠(部分)	■	■		■	■	■												
主張(全体)	■	■		■	■	■		■										
心情	■	■		■		■												
心情理由																		
行動																		
行動理由																		
人物像と関係																		
自分の考え																		
図表分析																		
複数文分析																		

出題されていない能力・資質

出題されていない
設問形式

「新傾向問題」の
ねらいどころ！

■ 5%以上～10%未満

■ 10%以上



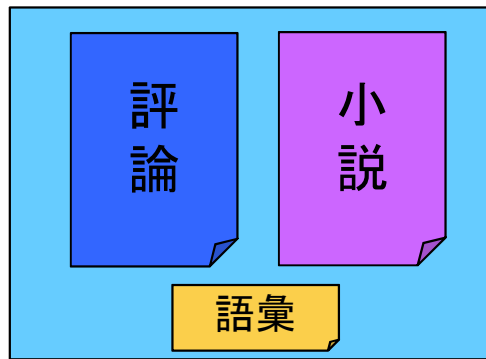
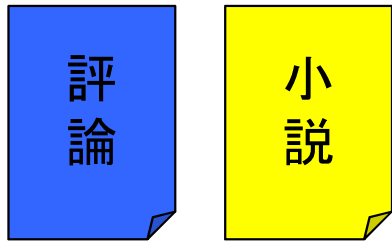
3. 新傾向問題の開発と評価

目標

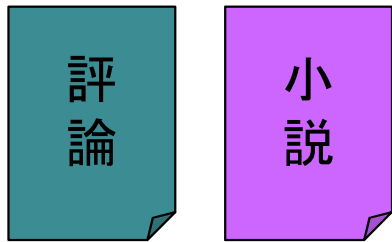
新傾向問題の特徴に関するエビデンスに基づく検証

検証用セット

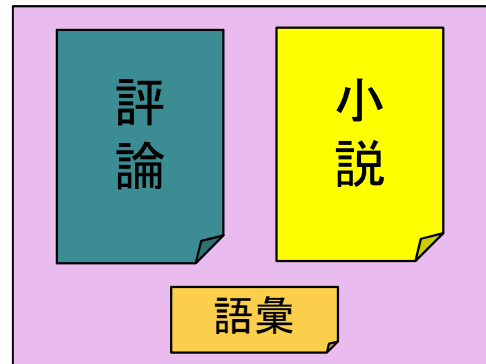
新傾向



過去問



新旧と評論・小説の比較ための組み合わせ



モニター調査協力者



- ✓ 道内外10高校
- ✓ 高3生1,409名

採点



- ✓ 高校教育に携わった経験を有する複数名が採点



3. 新傾向問題の開発と評価

新傾向問題の例：新聞における往復書簡を素材文にした例

第2問

次の文章は、朝日新聞に連載された「あなたへ 往復書簡」の二通目と二通目である。書簡の著者は、活躍する分野も世代も異なる。赤坂憲雄氏は東北学を提唱した民俗学者（学習院大学教授、福島県立博物館館長）であり、寺尾紗穂氏は音楽家、エッセイストである。読んで後の問いに答えよ。

【一通目】

「事実」とはなにか問いかける …… 赤坂憲雄より 寺尾紗穂様へ

八月はじめ、周防大島では、とても愉^{たの}しい対談をさせていただきました。この島を故郷とする宮本常一をめぐって話をしたわけですが、寺尾さんにとっては、宮本常一も民俗学もいくらか唐突なもので、きつと不安を抱えての対談でなかったかと思えます。わたしもまた、はじめての出会いでもあり、いつになく身構えて、ひと月前から、寺尾さんの何枚かのアルバムをエンドレスで聴きながら、二冊のご著書を読んで準備をしたのでした。

杞憂^{きゆう}でした。対談の前にはミニコンサートがあって、ピアノの弾き語りによる「アジアの汗」を聴いたとき、曖昧^{あいまい}であったことがくつきり像を結びました。これはまるで、宮本常一の「忘れられた日本人」のような、聞き書きの歌ではないかと。歌であれ、文章であれ、あなたのお仕事のどこにでも、だれか他者のかすかな声に耳を傾け、やわらかく身を寄せる姿が見いだされますね。

あのときはまだ、刊行される直前で拝読していなかった「あのころのパラオをさがして」について、お話しさせてください。この本を読ませていただき、あなたがむろん民俗研究者ではなく、またノンフィクションライターでもないことを、あらためて確認することができたような気がします。

【二通目】

乱暴な「わかりやすさ」距離とる …… 寺尾紗穂より 赤坂憲雄様へ

往復書簡のお相手に選んで頂き光栄です。周防大島のシンポジウムはおっしゃる通り、何故私が招かれたのか不思議でした。けれど主催の方に、「ご著書の『原発労働者』は平成の『日本残酷物語』だと思います」と言われ、なるほどと思えました。民俗学は、現在の社会やその問題も射程に入れられること、そのため、ルポと民俗学は案外近いところにあるのだと気付かされました。

私が原発労働者に取材を始めたのは樋口健二さんの「闇に消される原発被曝者」というルポを読んだことがきっかけです。その本を手にとった理由を考えていくと、赤坂さんが気に入って下さった曲「アジアの汗」のモデルになった山谷のおじさんとの出会いがあります。日雇い労働者の町からも、原発労働に流れて行く人たちがいることを知りました。「原発労働者」を出したとき、出版社は帯にわかりやすい文句をつけ、週刊誌でもセンセーショナルな見出しで紹介されました。新聞にしろ、週刊誌にしろ、「わかりやすさ」が必要です。でも私はそれを掲げてしまった瞬間に零れ落ちるものが気になりました。売るために必要とは思わかって、少し乱暴に思えました。一人の人の話をじっくりと聞いていくと、当然ながら、一言では語りきれない思いに出会います。そうした思いに触れ、時に苦い失敗も重ねながら、次第に、掲げられた「わかりやすさ」に対する距離感が自分の中に生まれていきました。

柳田國男が「遠野物語」について「二字一句をも加減せず感じたるままを書きたり」と書いたというのは、適切な表現のように思えます。聞いて書く、ということは、感じたことを書くということなのだ、常々感じます。取材を受けて記事を読むと、こんなに断定するようにはしゃべっていないな、と思うこともありますし、逆に取材する側としての

出典

朝日新聞「あなたへ 往復書簡」より一部引用（一通目 赤坂憲雄から寺尾紗穂様へ20171216掲載、二通目 寺尾紗穂から赤坂憲雄様へ20171223掲載）朝日新聞社に無断で転載することを禁じる 承諾番号19-11021



3. 新傾向問題の開発と評価

設問(新しい設問形態)

問4 「往復書簡」を読んで、赤坂氏と寺尾氏の話題をさらに深く発展させたレポートを書くことになった。

(1) 2人の話題の中から、詳しく調べてみたいこと(テーマ)を30字以内でまとめよ。

(2) (1)のテーマをより深く知るために読んでおきたい書籍名を、本文中の波線部から1冊挙げよ。

(3) そのことを調べると、どのようなことが分かるか(見通し)を予想して、120字以内でまとめよ。

目標

求める資質・能力(横軸)

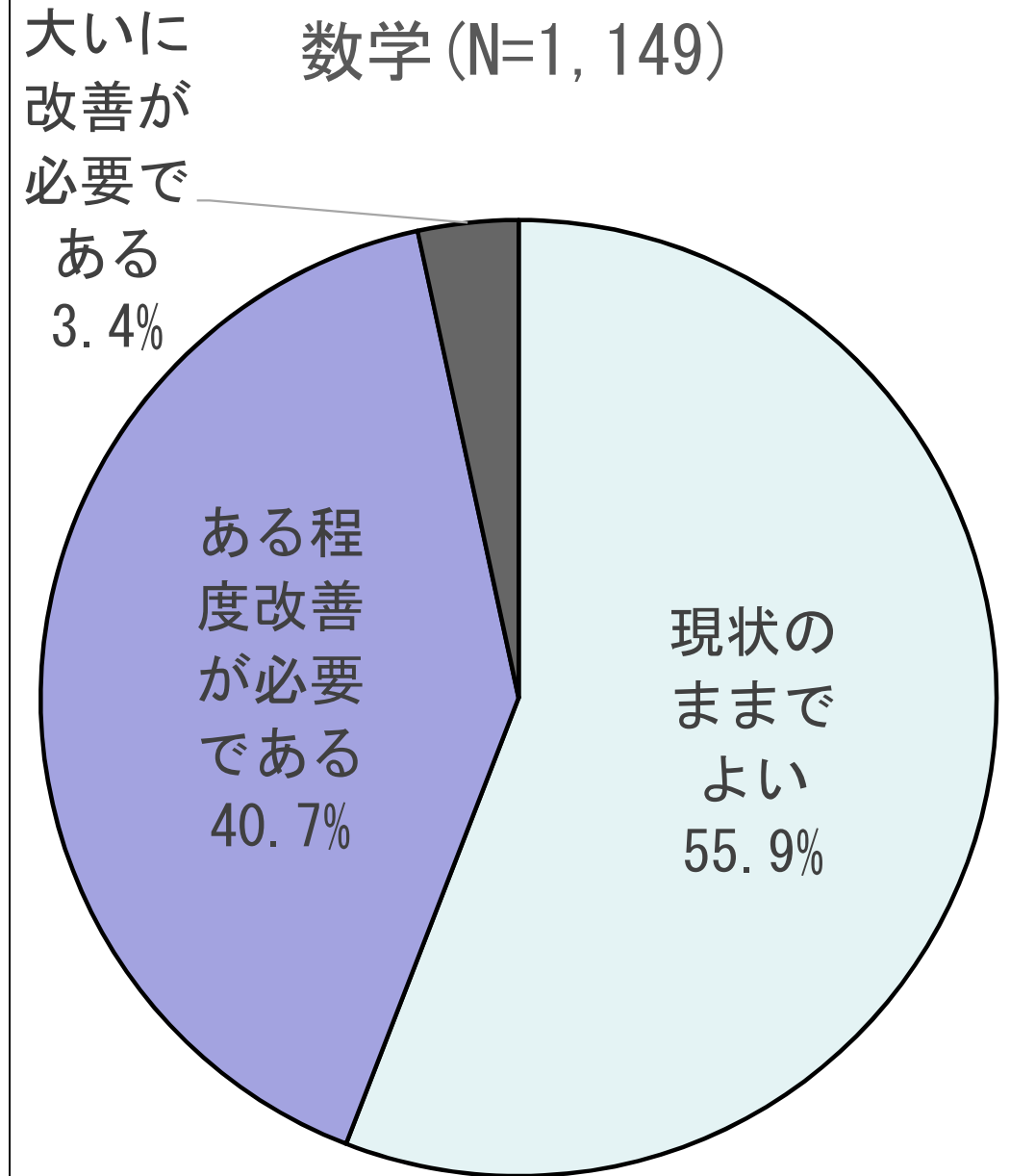
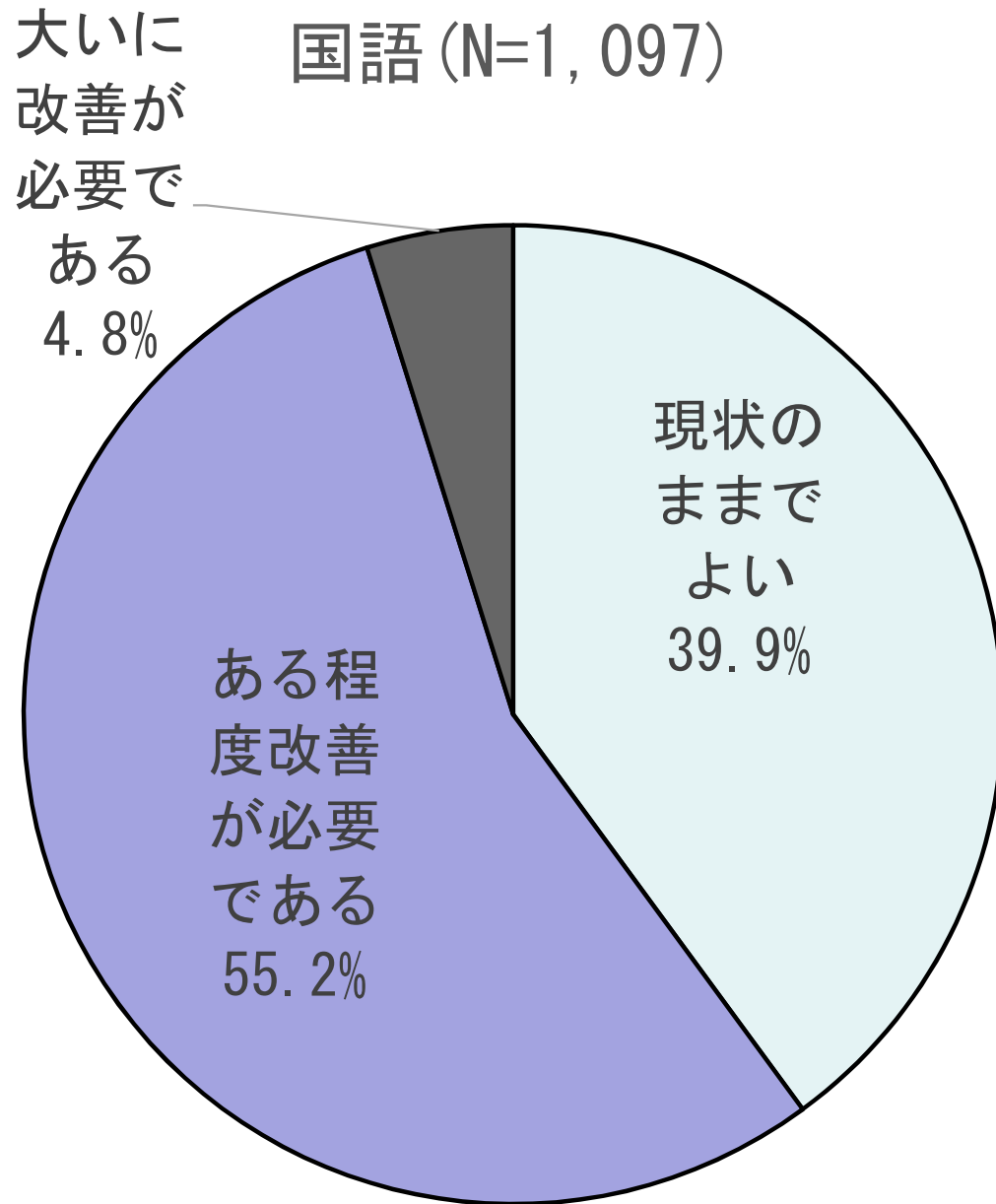
言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする

読書を通して自分の人生を豊かにしようとする



3. 新傾向問題の開発と評価 結果と考察

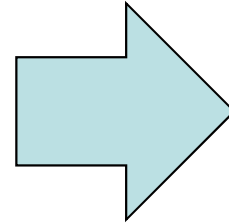
モニター調査の背景：高校教員調査(2018年2~3月実施)より



3. 新傾向問題の開発と評価 モニター調査の方法①

● 3年間の研究方略

予備調査(担当:東北大学)
モニター調査2016/2017
調査デザイン、評価指標の整備



本調査
モニター調査2018
新傾向問題の使用

● 調査デザイン

	センター試験 (選択式)		新共通テスト見本 (新傾向の代替)		個別学力試験 (旧来の問題)		新傾向問題	
	評論	小説	イメージ例	モデル問題例	評論	小説	評論	小説
2016 5校, 1,129名	○		○			○		
2017 9校, 1,535名		○		○	○			
2018 10校, 1,409名					○	○	○	○

※共通尺度として語彙テストを実施。2016年、2017年は比較対象として数学でも実施。

3. 新傾向問題の開発と評価 モニター調査の方法②

● 主な評価指標

1. テスト成績(得点率)

2. 質問紙法による生徒の反応・認知

① 印象評価(SD法)

頑健な3因子構造 ⇒ 尺度得点の比較

[意欲・関心因子] 2嫌いな－好きな／8解きたくない－解きたい／7むりそうな－できそうな／1つまらない－おもしろい／6意地悪な－素直な

[知識・能力] 12無意味な－有意義な／11実力がわからない－実力がわかる／10役に立たない－役に立つ／3ふざけた－まじめな／9下品な－上品な

[新奇性] 5R典型的な－奇抜な／4古い－新しい

3. 新傾向問題の開発と評価 モニター調査の方法③

● 主な評価指標(続き)

② 必要な資質能力の判断

対応分析による2次元マッピング

※「高大接続改革の進捗状況について」(2016)、「中教審答申」(2014)から抽出

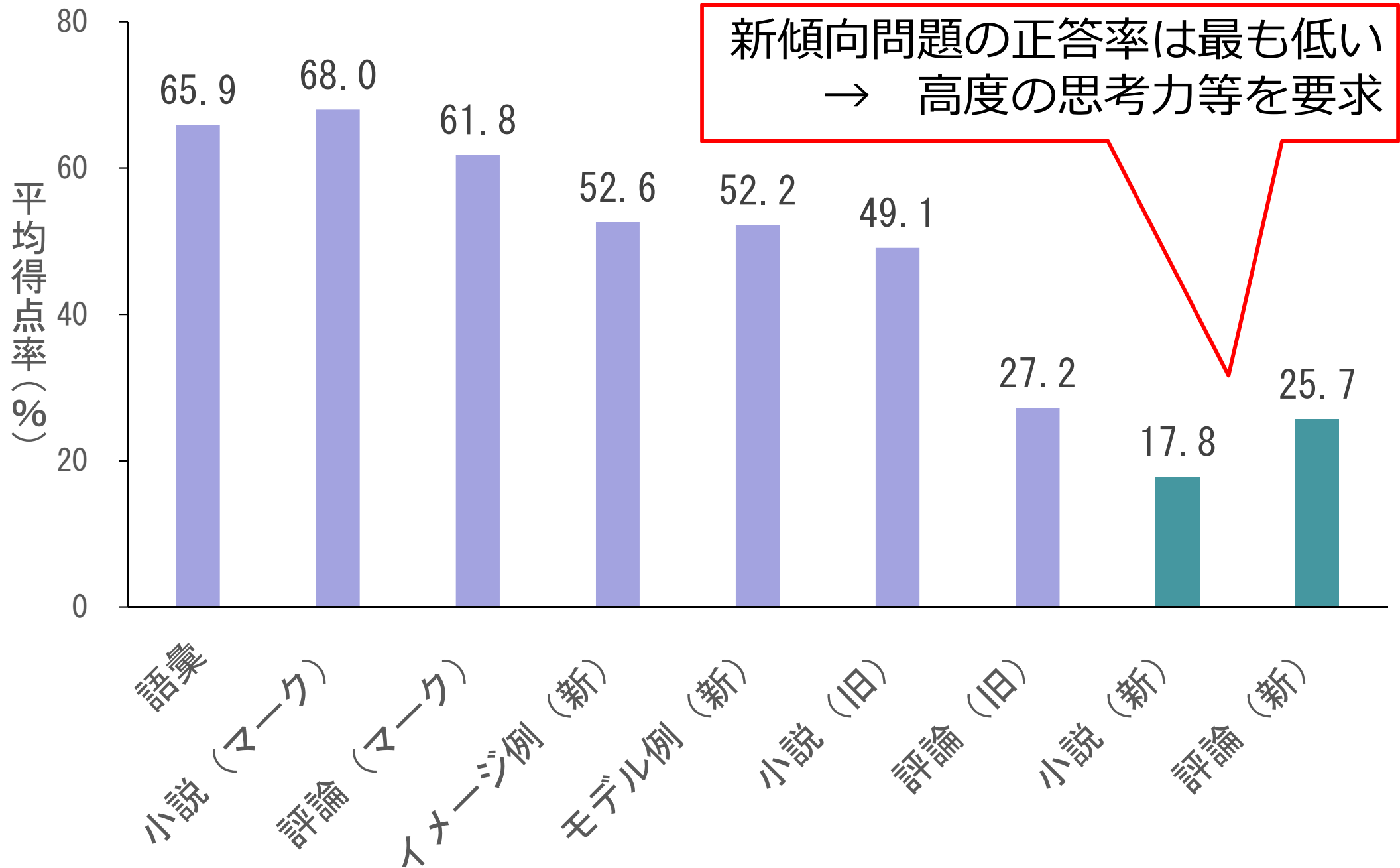
[言語理解力]1言葉の働きや役割に関する理解/2言葉の特徴や決まりに関する理解/3言葉の使い方に関する理解/4言語文化に関する理解/5一般常識や社会規範/13歴史の中で創造され継承されてきた言語文化の担い手としての自覚

[言語運用力]18表現力/7自分の文の構成や表現形式を振り返り評価する力/17要約力/19コミュニケーション力/10言葉を通じて伝える力

[深く学ぶ力]14粘り強く、柔軟に考え考察を深めていく態度/21論理的思考力/16読解力/11考えを形成し深める力/8言葉によって感じたり想像したりする力/12自分の感情をコントロールして学びに向かう態度

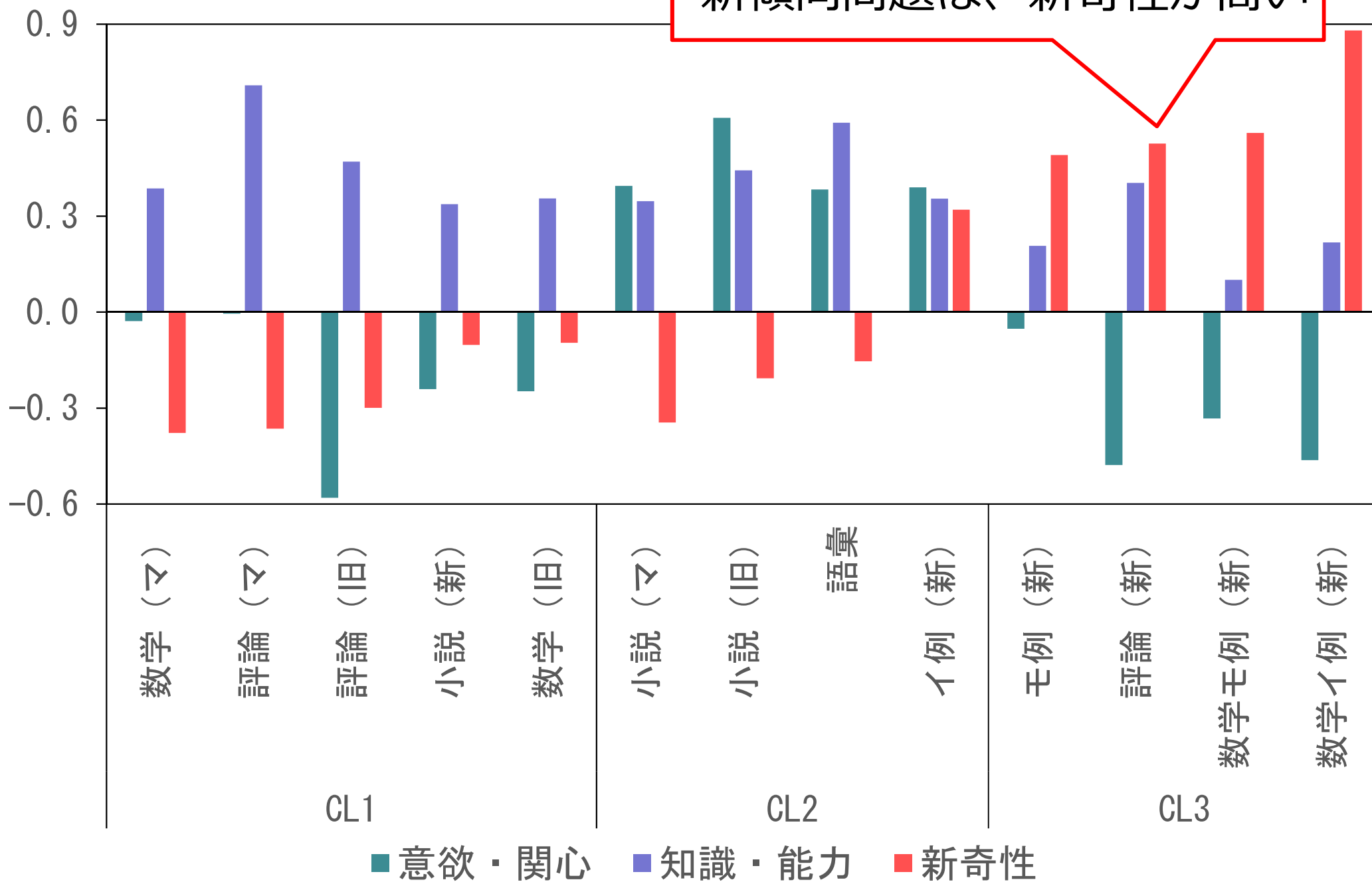
[情報活用能力]22図やグラフを描いたり読んだりする力/20統計的思考力/6情報を様々な見方でよく調べ、まとめる力

3. 新傾向問題の開発と評価 結果と考察 モニター調査の結果①: 正答率

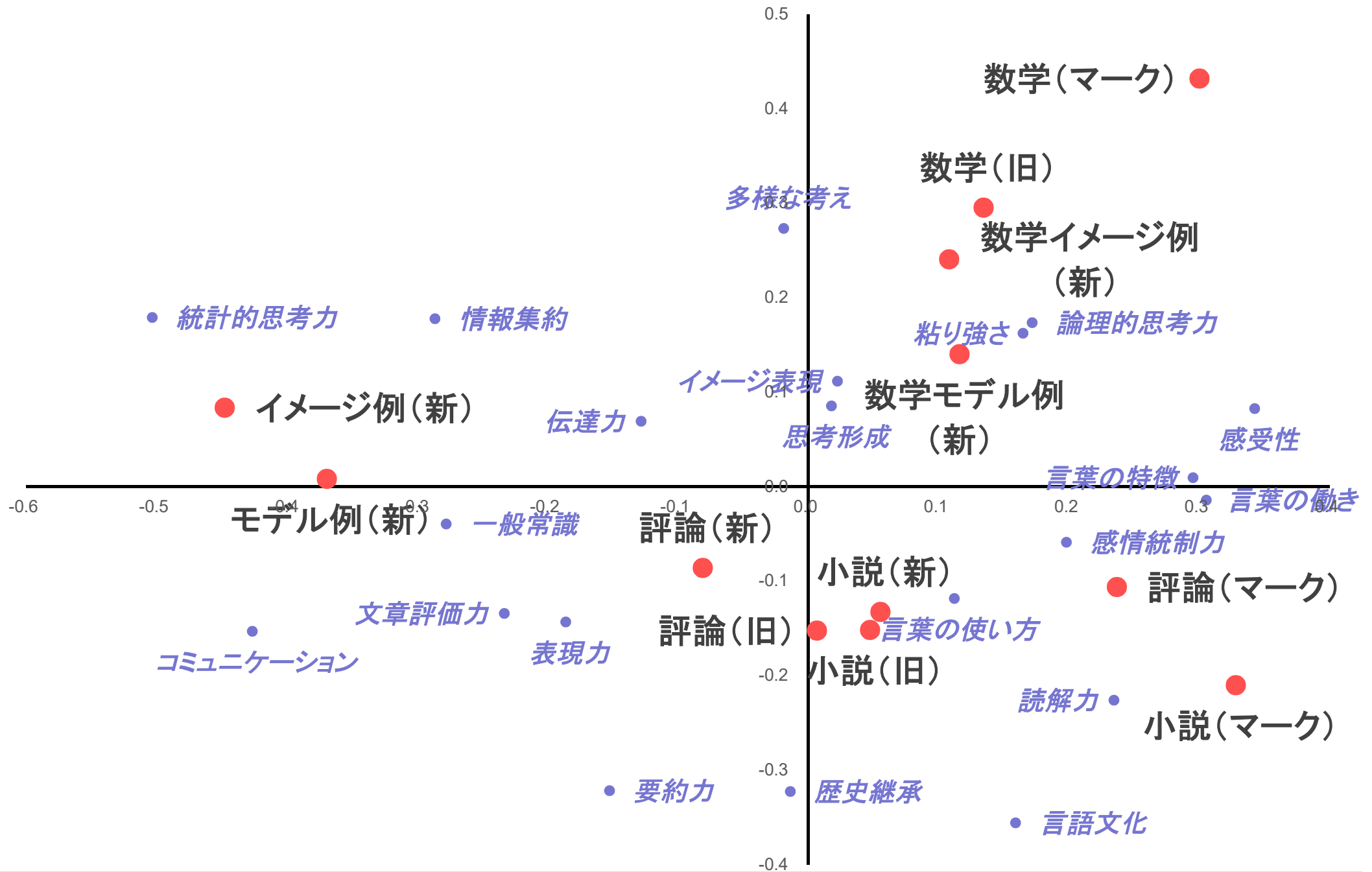


モニター調査②: 印象評価

新傾向問題は、新奇性が高い



3. 新傾向問題の開発と評価 結果と考察 モニター調査の結果③: 必要な資質・能力



3. 新傾向問題の開発と評価：結果と考察

測れていなかった資質・能力

思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力
仮説形成、知識思考 共感説明、思考発展	思考深化、人生育成

出題されてこなかった設問形態

表現

複数の文章を読み取る
自分の意見を書く

縦軸と横軸の不足していた領域を
組み合わせることにより
新傾向問題を作成できる

**素材文と設問形態の
新しい工夫が必要**



4. 分析指標の改善

目標

学力の3要素をカバーするための新しい設問形態を開発する

新しく開発した設問形態 ↓	仮説形成	知識思考	共感説明	思考発展	文化創造	思考深化	心の育成	言語発展	共感尊重	人生育成
レポートの企画	●	●		●		●				●
読むべき書籍の例示	●	●		●		●				●
結果の予測	●	●		●		●				●
デザインや表現の違いの考察	●	●	●	●	●	●				
意識差の根拠の比較	●	●	●	●		●			●	
...										



4. 分析指標の改善：会話文、実用文、統計資料を用いた設問例

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。
保健師「がん検診受けていますか？」

住民A「いえ、受けていません。でも最近、テレビで芸能人が乳がんで亡くなったとかやってたし、私も受けないといけないですよ。今年はこちらと受けようと思います。」

(1年後)

保健師「1年前、がん検診を受けるとおっしゃってましたけど、受けられましたか？」

住民A「いえ、まだです。①受けようとは思っているんですけど、なかなか時間がなくて。②どこでやっているかわからない。」

保健師「市から、がん検診のお知らせが送られていると思いますが、ご覧になりましたか？」

住民A「③届いていましたが、なんか難しそうなのが書いてあって、ちゃんと見てません。まあ特に悪いところもないし、今検診を受けなくても、すぐにどうにかなるものでもないから、大丈夫でしょう。来年は受けると思います。」

冒頭のような会話は、日常的に交わされている。そもそも、なぜ、がん検診を受けないといけないのか？それは、がん検診を受診することで、がんによる死亡率の低下が見込めるからである。日本では、日本というコミュニティ全体の利益のために、政策的な対策として集団を対象にがん検診を行うことになっている。このように、コミュニティ全体の健康的な利益を目指したがん検診を対策型がん検診という。(以後省略)

(大竹文雄・平井啓 編著 『医療現場の行動経済学 すれ違う医者と患者』東洋経済新報社より一部改変)

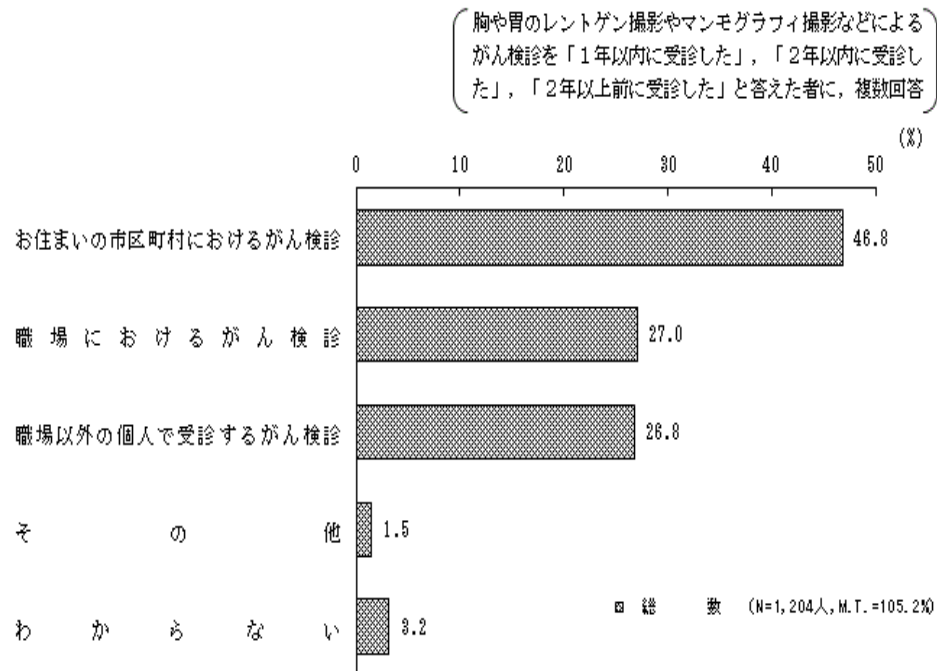
素材文に添付のハガキ(実用文)や統計資料の読み取りから、「学びに向かう力」の測定が狙える



4. 分析指標の改善：会話文、実用文、統計資料を用いた設問例

問1 住民Aは、がん検診を受けない理由の一つとして、傍線部②「どこでやっているかわからないし」と言っている。しかし、内閣府が行った「平成28年度がん対策に関する世論調査」の図5からは、受診場所を自分で探して受診している住民もいる。図6も参照し、住民Aと受診した住民とで、何に対するどのような意識の違いがあるのかを述べなさい。住民Aと受診した住民は同年代の同性で、同じ市町村に住んでいることを前提として考えなさい。

図5 がん検診の受診場所

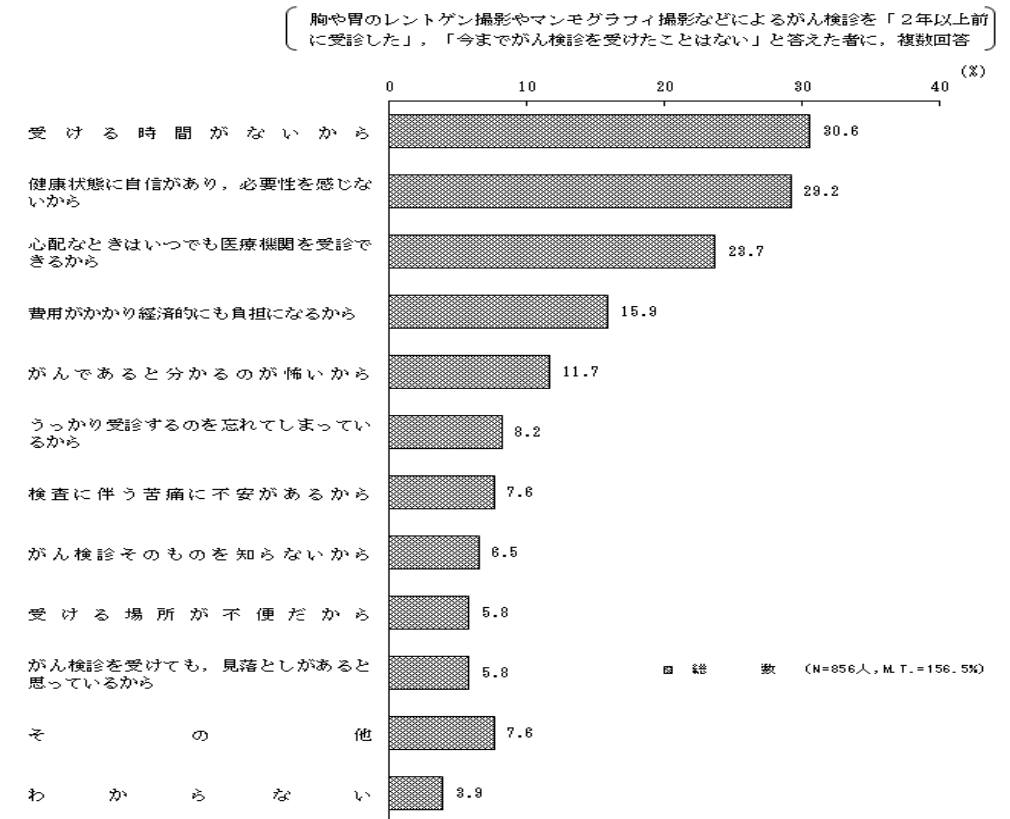


内閣府「平成28年度がん対策に関する世論調査」より

図5 <https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-gantaisaku/zh/z05.html>

図6 <https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-gantaisaku/zh/z06.html>

図6 がん検診を受けない理由



4. 分析指標の改善: 実用文(ハガキ)を用いた設問例

問2 大腸がん検診受診推奨ハガキに、左記の2種類がある。パターンAとパターンBでは、どちらを受け取った人が受診する確率が高いか。図5-1を見てパターンAとパターンBを比較しながら、その理由を説明しなさい。

図5-1 大腸がん検診受診推奨はがきの2種類のメッセージ

パターンA (ハガキ裏面)	パターンB (ハガキ裏面)
<p>今年5月下旬、ご自宅に 『大腸がん検査キット』 をお送りしました。 <small>(大腸がん検査キット)(1回分)</small></p> <p><small>※検査キットがお手元のない場合には、医療機関にてお受け取りください。</small></p>	<p>今年5月下旬、ご自宅に 『大腸がん検査キット』 をお送りしました。 <small>(大腸がん検査キット)(1回分)</small></p> <p><small>※検査キットがお手元のない場合には、医療機関にてお受け取りください。</small></p>
<p>八王子市では、前年度に大腸がん検診を受診された方へ、 『大腸がん検査キット』をお送りしています。</p> <p>! 今年度、大腸がん検診を受診された方には、 来年度、 『大腸がん検査キット』を ご自宅へお送りします。</p>	<p>ご注意</p> <p>八王子市では、前年度に大腸がん検診を受診された方へ、 『大腸がん検査キット』をお送りしています。</p> <p>! 今年度、大腸がん検診を受診されないと、 来年度、ご自宅へ 『大腸がん検査キット』を お送りすることができません。</p>
<p>☎ まずは、実施医療機関にご予約を… 市から5月にお送りした「検診ガイド(医療機関一覧表)」で ご確認の上、医療機関に電話でご予約ください。 <small>※一覧表は市ウェブサイトからも確認できます。</small></p> <p>詳しくは 八王子市 がん検診 で 検索</p>	<p>☎ まずは、実施医療機関にご予約を… 市から5月にお送りした「検診ガイド(医療機関一覧表)」で ご確認の上、医療機関に電話でご予約ください。 <small>※一覧表は市ウェブサイトからも確認できます。</small></p> <p>詳しくは 八王子市 がん検診 で 検索</p>

実用文(ハガキ)のレイアウトや文章表現の違い



- 「m.言葉を通じて社会や文化を創造しようとする」力の測定が可能
- 「n.言葉を通じて自分のものの見方や考え方を広げ、深めようとする」力の測定が可能



4. 分析指標の改善

資質・能力をもれなくカバーするために素材文の工夫も必要

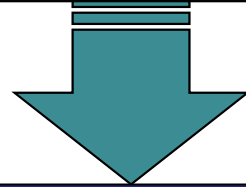
ジャンル	書籍名(素材文)
評論(16題)	①朝日新聞連載「あなたへ往復書簡」、②「なにかをすまえに。ちょっと考えてみること(抄)」+複数素材、③「戦争と近代技術」+複数素材、④「現代思想講義」+「人間の解剖はサル解剖のための鍵である」、⑤「日本美術を見る眼」、⑥「遺言。」+論文等、⑦「粘菌 その驚くべき知性」、⑧「日本文学の大地」、⑨「リベラルアーツ 理系的思考のすすめ」、⑩「人工知能に哲学を教えたら」+マルセル・デュシャン「泉」(作品の写真)、⑪「日本の感性が世界を変える 言語生態学的文明論」、⑫「人間と自然」+朝日新聞記事、⑬「言葉のだらく」+「数学むだばなし」、⑭行動経済学の書籍+内閣府の世論調査のデータ、⑮方言学の専門書+2010年全国方言意識調査と統計分析、⑯「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」+「人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」: 第三次AIブームの到達点と限界」+「人工知能に哲学を教えたら」
評論+その他(1題)	①言語学の文献+中国人日本語学習者が書いた文章
小説(8題)	①「或日の大石内蔵助」、②「魔法使いの涙」、③「羊と鋼の森」、④「旅する本」2冊、⑤「ダイヤモンドダスト」、⑥「安芸のやぐも唄」、⑦「ヴィネチア便り」+「マチネの終わりに」、⑧「青磁砧」
小説+その他(1題)	①小説「椰子の実」+歌詞「椰子の実」
その他(8題)	①「平家物語」+国語辞典+古典の単語集、②「伊勢物語」の傍線部「下りみて」の表現を含んだ場面の絵を選ばせる、③「小林秀雄講演第一巻 文学の雑感」の音声資料「大和魂は女コトバ」(12分程度)の聞き取り、④「平成22年度〇〇大学卒業式・学位記授与式 総長式辞」の聞き取り、⑤「私の少女マンガ講義」の本文を参照してマンガの順番やセリフ等を考えさせる、⑥漢文と短歌に共通する内容を考えさせる、⑦古典作品の本文と和訳から筆者の気持ちや自身の経験の振り返りをさせる、⑧中学校1年生の数学の教科書4冊を比較・検討させる



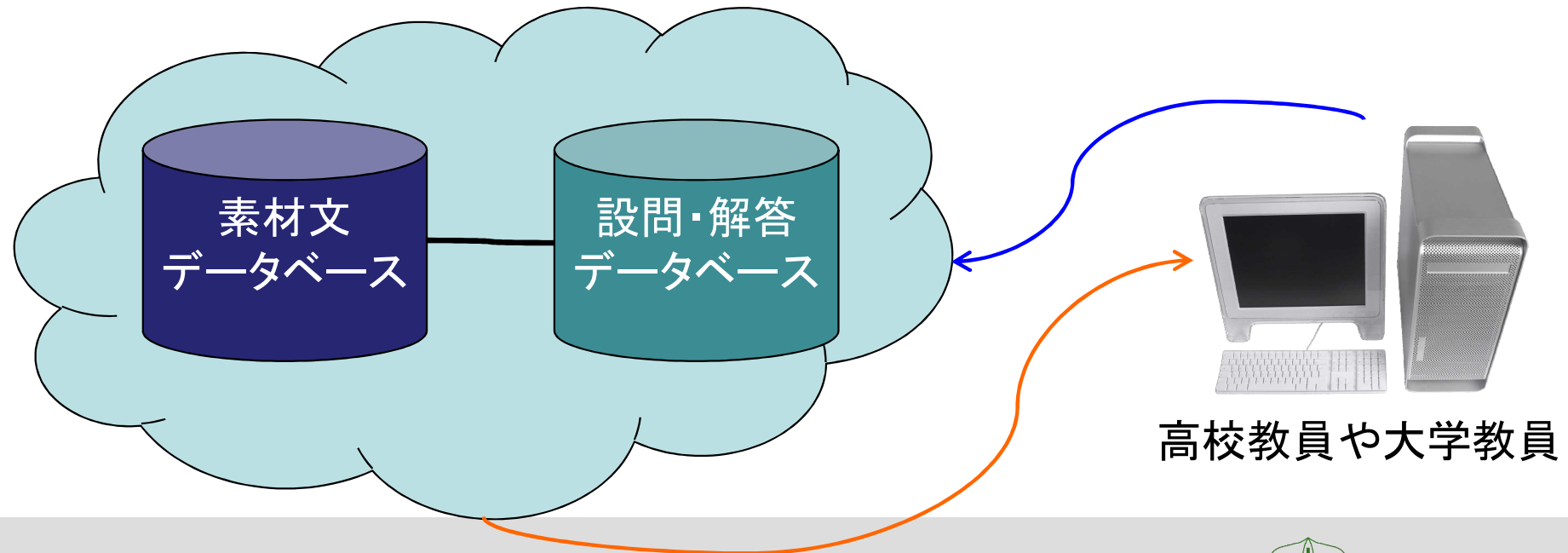
5. データベースの開発

目標

学力の3要素をカバーできる問題作成の支援



特定の資質・能力を測定できる問題を多様な条件で検索でき、その具体的な設問形態やその解答例、採点基準などを参照できるデータベースを開発する



5. データベースの開発：設問・解答データベース(イメージ)

設問の詳細データ

設問：棒線の...を説明せよ。

意図：比喻表現の意味を...

能力・資質：

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 国語標記 | <input type="checkbox"/> 心情読解 | <input type="checkbox"/> 思考深化 |
| <input type="checkbox"/> 文法適用 | <input type="checkbox"/> 仮説形成 | <input type="checkbox"/> 心の育成 |
| <input type="checkbox"/> 情報抽出 | <input type="checkbox"/> 知識思考 | <input type="checkbox"/> 言語活用 |
| <input type="checkbox"/> 内容解釈 | <input type="checkbox"/> 共感説明 | <input type="checkbox"/> 言語発展 |
| <input type="checkbox"/> 文章表現 | <input type="checkbox"/> 思考発展 | <input type="checkbox"/> 共感尊重 |
| <input type="checkbox"/> 主張推測 | <input type="checkbox"/> 文化創造 | <input type="checkbox"/> 人生育成 |

設問形態：

- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 読み書き | <input type="checkbox"/> 指示語内容 | <input type="checkbox"/> 根拠(部分) | <input type="checkbox"/> 行動理由 |
| <input type="checkbox"/> 辞書的意味 | <input type="checkbox"/> 挿入語句 | <input type="checkbox"/> 主張(全体) | <input type="checkbox"/> 人物像と関係 |
| <input type="checkbox"/> 言語文化 | <input type="checkbox"/> 意味内容 | <input type="checkbox"/> 心情 | <input type="checkbox"/> 自分の考え |
| <input type="checkbox"/> 表現の特色 | <input type="checkbox"/> 目的と状況 | <input type="checkbox"/> 心情理由 | <input type="checkbox"/> 図表分析 |
| <input type="checkbox"/> 文章構造 | <input type="checkbox"/> 主張(部分) | <input type="checkbox"/> 行動 | <input type="checkbox"/> 複数文分析 |

解答形式：短文(50字以内)

正答例：蔵之介の心情の変化を...

採点基準：3通りの心情変化が...

受験者数：○人 標準偏差：△△

平均点：×× 無回答率：□□%

素材文の一覧データ

NO	設問	意図	能力	形態	形式	正答	採点	受験	統計
01	...	○ ○	× ×	△	□	○
02	...	× ×	○ ○	□	△	×
03									
04									
05									
06									
07									
08									
09									
10									
11									
12									
...									



今後の課題

	国語表記	文法適用	言語活用	情報抽出	内容解釈	文章表現	心情理解	主張推測	仮説形成	知識思考	共感説明	思考発展	文化創造	思考深化	心の育成	言語発展	共感尊重	人生素成
読み書き																		
辞書の意味																		
言語文化																		
表現の特色																		
文章構造																		
指示語内容																		
挿入語句																		
意味内容																		
目的と状況																		
主張(部分)																		
根拠(部分)																		
主張(全体)																		
心情																		
心情理由																		
行動																		
行動理由																		
人物像と関係																		
自分の考え																		
図表分析																		
複数文分析																		

従来の問題傾向を明らかにした

今後の課題

- カバーしていない資質・能力を測定する設問の作成
- 設問形態と資質・能力の関係づけの整理
- 複雑な設問の採点基準の簡素化

データベースへ反映

従来にない横軸と縦軸の組み合わせにより新傾向問題を作成し、データベース化した



参考資料：分析指標 横軸参照資料①

国語科で育成すべき資質・能力（案）

平成28年5月31日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料1（別紙2）

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>○言葉の働きや役割に関する理解</p> <p>○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の位相、書き言葉（文字）、話し言葉、敬語、方言 ・語、語句、語彙 ・文の成分、文の構成 ・文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係） <p>など</p> <p>○言葉の使い方に関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方、書き方、表現の工夫 ・聞き方、読み方、音読・朗読の仕方 ・話合いの仕方 <p>○書写に関する知識・技能</p> <p>○伝統的な言語文化に関する理解</p> <p>○文章の種類に関する理解</p> <p>○情報活用に関する知識・技能</p>	<p>国語で理解したり表現したりするための力</p> <p>【創造的思考とそれを支える論理的思考の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力 <ul style="list-style-type: none"> ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化 ・論理（情報と情報の関係性：共通－相違、原因－結果、具体－抽象等）の吟味・構築 ・妥当性、信頼性等の吟味 ➢ 構成・表現形式を評価する力 <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 ➢ 構成・表現形式を評価する力 <p>【他者とのコミュニケーションの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 言葉を通じて伝え合う力 <ul style="list-style-type: none"> ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解 ・自分の意思や主張の伝達 ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り ➢ 構成・表現形式を評価する力 <p>≪考えの形成・深化≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 考えを形成し深める力（個人または集団として） <ul style="list-style-type: none"> ・情報を編集・操作する力 ・新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 ・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度 ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通して、心を豊かにしようとする態度 ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度 ・我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度 ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに出会ったりするなどして人生を豊かにしようとする態度



参考資料：分析指標 横軸参照資料②

求められる諸能力の育成のために各教科において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

平成27年12月22日
高大接続システム改革会議
資料3(一部改変)

※以下の各教科の内容については、次期学習指導要領に関する中央教育審議会における審議も踏まえ、見直しを行う必要

国語 において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等から得られる情報を整理し、概要や要点等を把握するとともに、

他の知識も統合して比較したり推論したりしながら

自分の考えをまとめ、

他の考えとの共通点や相違点等を示しながら、

伝える相手や状況に応じて適切な語彙、表現、構成、文法等を用いて効果的に伝えること

ア) 与えられた文章や図表等の中から情報を収集したり取り出したりする力

イ) 文章や図表等の情報を整理し、解釈する力

ウ) 文章や図表等の情報を要約したり、一般化したりする力

エ) 目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連づけたりする力

オ) 得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力

カ) 得た情報を基に、立場や根拠を明確にししながら、論理的に思考する力

キ) 上記ア)～カ)のプロセスを経て、問題解決のための方法や計画(自分の考え)をまとめる力

ク) 上記ア)～キ)のプロセスで得た情報を構造化し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫して表現する力

ケ) 受け手の状況を踏まえて表現する力

コ) 表現した結果を振り返り、さらに改善する力

